

実践のまとめ（第1学年国語科）

上越市立八千浦小学校 教諭 由井 萌南

1 研究テーマ

自分の考えをもって伝え合うことを楽しみ、自他の考えのよさや違いに気付く児童の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

中央教育審議会は「教育課程企画特別部会論点整理」（平成27年）の中で、「他者に対して自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、対話や議論を通じて多様な相手の考えを理解したり自分の考え方を広げたりし、多様な人々と協働していくことができる人間であること。」がこれからの時代に求められると述べている。

「小学校学習指導要領」（平成29年告示）では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」ことを目標に掲げている。伝え合う力を高めるとは、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることである。」としている。

そこで、対話を通して友達と交流することの楽しさやよさを感じ、自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、相手の考えを理解したり、自分の考え方を広げたりできる児童を育成したいと考え、テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

国立教育政策研究所は、「学校における教育課程編成の実証的研究」（平成29年度～令和3年度）で、表で示された『学習者』『授業者』の視点を大切にし、単元構成、授業づくりを示し、授業者による授業の改善の視点と学習者における学びの改善の視点が往還することが主体的・対話的で深い学びの実現につながることを指摘している。

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none">● 子ども同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める● 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める● 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める● 先哲の考え方を手掛かりに考える	<ul style="list-style-type: none">● 思考を交流させる● 交流を通じて思考を広げる● 協働して問題解決する● 板書や発問で教師が子どもの学びを引き出す

② 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための土台となるスキルの習得

ア 聞き方のスキルの習得

よりよい対話のために聞き方のスキルを身に付けさせ、児童が自分の意見を話してもよい、聴いてもらえると感じられる学級の雰囲気を作る。

イ ハンドサインによる意思表示

自分の思いや考えを、ハンドサインで表す。ハンドサインを出すために、発表をよく聞き、自分の意見と比べることで、自他の考えのよさや違いに気付く。また、「グットサイン」を出すことで、友達同士で認め合う場にもなる。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 友達との対話に楽しさや魅力を感じるようになった子どもが増える。(アンケート)
- ② 対話を通して、自分の考えを強固にしたり考えを広げたりし、ワークシートに書くことができる。(ワークシート)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

くじらぐも (こくご1年下 光村図書)

(2) 単元(題材)の目標

- ・ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。〔知識及び技能(1)ウ〕
- ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能(1)ク〕
- ・ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔思考力・判断力・表現力C(1)エ〕

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。【(1)ウ】 ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。【(1)ク】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。【C(1)ク】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像してことを友達に伝えようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全9時間、本時6/9時間)

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「くじらぐも」を読み、感想を書く。 ・ 物語のあらすじをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎好きな場面やおもしろかったところを伝えよう。 ◎どんなお話か、伝えよう。 	
2(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一場面を読み、くじらぐもの様子を読み取る。 ・ 第二場面を読み、くじらぐもと会話する子どもたちの心情を考える。 ・ 第三場面を読み、くじらぐもに飛び乗る子どもたちの心情を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもたちとくじらぐもの様子を読み取ろう。 ◎子どもたちがお話ししたことや気持ちを想像して、友達に伝えよう。 	<p>知識・技能</p> <p>かぎ(「」)の使い方を理解して、正しく使う。 【ワークシート】</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・（本時）第四場面を読み、くじらぐもの背中に乗り、一緒に旅をする子どもたちの心情を考える。 ・第五場面を読み、くじらぐもと別れる子どもたちの心情を考える。 		<p>【ワークシート、発言】</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像してことを友達に伝えようとしている。</p>
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「くじらぐも」のお話の続きを考えて交流し合う。 	◎続きのお話を考えて、友達に伝えよう。	<p>知識・技能 かぎ（「」）の使い方を理解して、正しく使う。</p> <p>【ワークシート】</p> <p>思考・判断・表現 場面の様子や登場人物の心情から、物語の続きを具体的に想像している。</p> <p>【ワークシート、発言】</p>

4 単元（題材）と児童

(1) 単元について

これまで「はなのみち」「おおきなかぶ」「やくそく」で、人物の言ったことやしたことを確かめながら読んだり、動作化してお話を楽しんだりして、読むことの理解を深めてきた。

本単元では、叙述を基に想像することを楽しみながら音読をし、想像を深めることを大切にする。物語の設定や場面の様子を押さえながら、自分だったらこんなことを言う、くじらぐもに乗ってこんな所に行きたいなど、創造的に読み、互いの考えを伝え合うようにしたい。ペアやグループなど、一人一人が感じたことを共有し、見方・考え方を広げる機会を増やしたい。

(2) 児童（生徒）の実態

本学級の児童は、「はなのみち」「おおきなかぶ」で挿絵を見て考えたり、動作化を取り入れたりすることにより、場面の様子や、登場人物の様子を理解し、登場人物の心情を想像することができた。しかし、経験や語彙の少なさから、物語を読んだだけでは具体的に場面を想像することが難しい児童もいる。

本単元では、くじらぐもに乗って見える景色などを具体的に想像し、登場人物の心情を考えることができるとよい。さらに、友達と意見交流をすることで、自分の考えをより確かなものにしたたり、考えを広げたりする姿を期待する。

5 本時の展開（令和7年10月9日実施）

(1) ねらい

第四場面を読み、くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの会話や心情を想像し、友達に伝えることができる。

(2) 展開の構想

- ① 前時の振り返りで、叙述に基づいてくじらぐもと子どもたちの行動を確認する。
- ② 雲の上に乗った時の感覚、雲の上から見えるもの等、くじらぐもに乗った子どもの様子についてイメージを膨らませる。その時に、空撮の映像を提示したり、問い返しをしたりすることによって具体的に想像できるようにする。
- ③ イメージを膨らませながら自分の考えをワークシートに書いた後、ペアで話し合う時間を設ける。ペアで意見交流をして友達の考えを生かせるようにする。自分が話したことや周りの友達の意見を使って自分の考えを書くことができるようにする。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童（生徒）の反応	<input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 支援 <input type="checkbox"/> 留意点
10	<ul style="list-style-type: none"> ・第4場面を音読する。 ・前時までの学習を振り返る。 ・本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第4場面を先生の後に続いて読みましょう。 ○くじらぐもと子どもたちがしたことは何ですか。 ・青い青い空のなかを、げんきいっぱいすすんでいった。 ・海、村、町のほうへいった。 ・くじらぐもにのって空をとんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習を記録し、いつでも振り返ることができるようにする。 <input type="checkbox"/>語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（知）【音読】 ○挿絵や作品のアニメーションを見せたりし、お話のあらすじをつかめるようにする。
	<p>くじらぐもにのったこどもたちがはなしたことや、きもちをそうぞうして、おともだちにつたえよう。</p>		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・雲の上に乗った時の感覚、雲の上から見えるもの等、くじらぐもに乗った子どもの様子についてイメージを膨らませる。 ・想像したことをワークシートに書く。 ・全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなでくじらぐもにのりました。どんなものが見えたり、どんな音が聞こえたりするでしょう。 ・海、町、村が見える。 ・町には家や学校がある。 ・鳥の声が聞こえると思う。 ・雲は、ふわふわだと思う。 ・雲に乗るのは、気持ちよさそう。 ・高くて、ちょっと怖いかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「見えるもの」「聞こえる音」「雲の感触」等、問いを用意し、感覚も想像できるようにする。 ○空を飛ぶ想像が難しい児童がいることが予想されるため、空撮の映像を提示し、高い場所から見える景色を想像できるようにする。 ○問い返しをして、より具体的に想像できるようにする。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもにのった子どもたちが話したことや、気持ちを想像し、ワークシートに書く。 ・意見交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ○くじらぐもにのった子どもたちが話したことや、気持ちを想像して、書きましょう。 ・空をとべて、とてもきもちがいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像している。（思） 【ワークシート、発言】

	①ペア ②自由 ・意見交流で得た考えをワークシートに書く。 ・意見を発表し、全体で共有する。	・みんなでいっしょにとんで、たのしいな。 ・ぼくのおうちやしょうがっこうがみえるかな。 ○友達とお話して、新しい考えやいいなと思ったことを書きましょう。 ○想像したことを発表しましょう。	<input type="checkbox"/> 積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとしている。（態） 【ワークシート、見取り】 <input checked="" type="checkbox"/> 想像したことをワークシートのふきだしに書く。 <input type="checkbox"/> かぎ（「」）の使い方を理解して、正しく使うことができる。（知） 【ワークシート】
5	・本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○次は5場面の子どもたちの気持ちを考えましょう。	

(4) 評価

- ・かぎ（「」）の使い方を理解して、正しく使うことができる。【ワークシート】
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像している。【ワークシート、発言】
- ・積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとしている。【ワークシート、見取り】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

今回の実践では、「①くじらぐもに乗った子どもの様子や気持ちを想像すること」「②思考を交流させ、交流を通じて思考を広げること」に重点を置いて授業を行った。

① 「くじらぐもに乗った子どもの様子や気持ちを想像すること」について

「雲の上から何が見えるかな。」「どんな音が聞こえるかな。」など、ワークシートに問いを載せた。児童は、その問いに答えるように雲に乗った感覚を想像し、ワークシートに書いた。また、雲に乗って高いところから見える景色を想像させるため、空撮の映像を見せたことで、児童はより具体的に雲に乗った子どもの様子を想像し、ワークシートに書き加える姿が見られた。

② 「思考を交流させ、交流を通じて思考を広げること」について

友達の書いたワークシートを見に行き、自分のワークシートに書き足したり、全体共有の場で板書された意見を自分のワークシートに書いたりする姿が見られた。25人の児童がワークシートに友達の意見を書き足したり、友達との交流を通して新しい考えをもってワークシートに書いたりしていた。

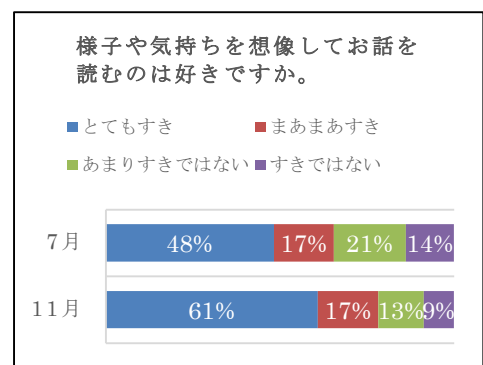
(2) 研究テーマに関わる評価

本学級児童に、国語に関する実態調査を実施したところ、以下のような結果が出た。

「様子や気持ちを想像してお話を読むのは好きですか。」の問いに対して7月は65%、11月は78%と肯定的評価が13%増えた。「くじらぐも」の学習を通して想像して読むことの楽しさを感じた子どもが増えたことが予想される。（表1）

「友達や先生に考えを話すのは好きですか。」の問いに対して、7月は79%、11月は96%と肯定的評価が17%増えた。（表2）

表 1



しかし、「友達や先生の考えを聞くのは好きですか。」の問いに対して、7月は90%、11月は74%と肯定的評価が16%減った。（表3）

児童が自分の考えをもつことができるように、様々な工夫をしたことによって、自分の考えをもつことができ、それを友達に話したいという意欲を高めることはできたため、考えを話すことに対する肯定的評価が高まったと考えられる。しかし、意見交流させることの必然性をもたせたり、友達と意見交流することのよさを感じさせたりすることができなかったため、聞くことに対する肯定的評価が下がったと考えられる。その中で「お友達と意見交流をしたら、どんなことができるようになりましたか」という問いに対して、友達と話し合うことのよさを感じる児童もいた。（表4）多くの児童に、友達の意見を聞くことで、自分にとってよいことがあると実感させることが今後の課題である。

表4

- お友達と意見交流をしたら、どんなことができるようになりましたか。
- ・ 意見が分かる。
 - ・ 勉強ができるようになった。
 - ・ 意見交換をしてからその話に詳しい話が出るようになった。
 - ・ 友達の意見が分かってまた増やせる。勉強になる。
 - ・ お友達と話すといろいろな言葉が分かるようになってよかった。

(3) 今後の課題

本時の意見交流は、自分の意見を増やすことを目的とし、友達の書いたワークシートを見に行くという意見交流を行った。しかし、ワークシートを見るだけでは対話としては、不十分だった。特に1年生という発達段階では、話型や相手を定めたりして、対話を行う必要があった。対話を行う目的や発達段階に合わせて、意見交流をするやり方を吟味する必要があると感じた。

また、アンケートの結果から、友達と意見交流することのよさを感じさせたりすることが課題である。しかし、友達の考えを聞くよさが分かっていても、聞く力が育っていないと対話はできない。友達の意見を聞くことで、自分にとってよいことがあると実感させるとともに、聞く力を高めていきたい。

〈参考・引用文献〉

- ・ 中央教育審議会，教育課程企画特別部会 論点整理，文部科学省（令和7年6月16日閲覧）
2015https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf
- ・ 文部科学省，小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（令和7年6月16日閲覧）
https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf

表2

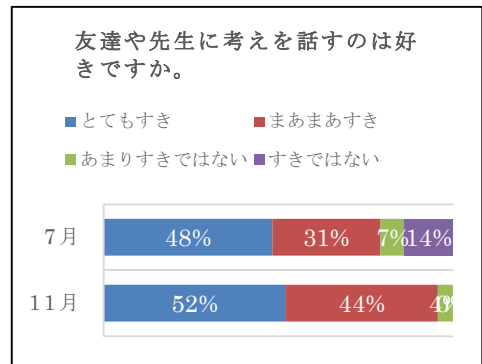


表3

